



# みらいこども園

12月号

2024年12月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 勝浦 芳子



## 思いを伝える大切さ

寒暖差が激しい師走を迎えております。鼻水、咳、高熱が出るなど、体調を崩している方がとて多くなっております。園内では、換気、うがい手洗いを徹底し感染対策を行って参りますが、どうぞご家庭でも、体調管理に努め、具合が悪い時は、早めに病院に行かれることをお勧めいたします。

さて、最近の子ども達の様子ですが、好きな場所や遊びを見つけては、楽しみ方を工夫しています。友達との関わりも多くなり、遊びの内容も、単純なものから複雑なものに発展させるなど、とことん遊びに熱中している場面をよく見かけます。その反面、遊びに夢中になりすぎて、周囲の状況が見えないこともあり、友達とトラブルを起こしたり、危険なことを面白がったりすることも増えてきました。楽しい気持ちややってみてみたいという意欲は大切にしていきたいですが「楽しければ何をしても良い」ではなく、集団生活の中では、ルールや決まりがあることを伝え、人に迷惑をかける行為や危ないことをしたときは、その都度「これはいいかな？」と問いかけながら、規範意識が身につけられるようにしていきます。こども園では、子ども主体を大切にしていますが「見守り」と「放任」は違いますので、今後の子ども達の成長に役立つよう対応していきたいと思っております。

11月上旬から幼児クラスは『ワクワクげきじょう』に向けて、日頃の遊びから身についた知恵や行動を基に、今子ども達は何に興味関心を持っているのか、保護者の皆さまにお伝えすることができるように、『発表する』ということも考えながら、活動の意識付けを行っています。

特に、にじ組さんは「サークルタイム」＝（子ども達が輪になって座り、対話や意見交換をすること）を活用しながら、クラスで何を劇ごっことして行いたいのか子ども達に聞いてみました。自分が何をしたいかという思いは、どんどん膨らんでいくのですが、1つの物語を、みんなで言うということは、なかなかイメージが湧かず、決まるまで時間がかかりました。しかしながら、サークルタイムを重ねていくうちに、相手の思いを受け入れたり、友達のアイデアを誉めあったりすることで、少しずつ気持ちがひとつになり、準備を進めることが出来てきています。人の思いは様々ですが、こうして、意見を分かち合うことは、物事を解決する方向に必ず結びつくと感じます。子ども達にとって、1つの物語を完成させるには、並大抵なことではありませんが、自分の役を作り上げようと一生懸命です。衣装や小道具にも、子ども達の感性豊かな工夫が見られますので、当日まで楽しみにしてください。ほし組さん、そら組さんも、クラスの個性や成長が見られる子どもたちの表現をぜひお楽しみください。

先日、本園を修了した9名の中学生が職業体験の一環として、園に来てくれました。2日間という短い期間でしたが「懐かしい！」「可愛い！」「面白い！」「昔はホール広いと思っていたけど、ちっちゃい」「癒される！」などの感想を持ちながら、どの生徒も一生懸命、保育者の手伝いや子どもの遊びに関わってくれました。その働きは、「明日からアルバイトで来てくれないかなあ」と、言ってしまうほどで、成長を強く感じました。しぐさや表情は「小さい頃とほとんど変わってないね」と当時を知る職員は懐かしさを感じると共に、みらいこども園を職業体験の場を選んでくれたことをとても嬉しく思いました。そして、この中から、将来みらいこども園の保育者になってくれたらと願いも沸き上がり、子ども達にとっても、すてきな時間になりました。「三つ子の魂百まで」とよく言われますが、改めて、乳幼児期の大切さを実感しました。

今年も残り一ヶ月余りとなりました。子ども達は、日頃の園生活で、沢山のひとと関わり互いを認め合い、楽しい時間を過ごしながら、多くのことを吸収して成長し続けています。これからも子ども達一人一人の特性をキャッチし、さらなる教育・保育が行えるよう努力して参りますので、みらいこども園の方針にご理解とご協力をお願いいたします。

